



御射山遺跡 (第4次発掘調査)

配送センター建設に伴い
緊急発掘調査報告書

南原 1993. 3

長野県原村教育委員会

表紙地図10,000分の1 ○印が御射山遺跡（発掘調査地点）

序

このたび平成4年度の御射山遺跡第4次発掘調査報告書を発行することとなりました。

調査の結果、幸い遺跡の中心部から外れていたことがわかり、破壊された範囲は最小限にとどまっています。

村内には、90ヵ所をこえる遺跡が知られていますが、近年は工場建設やそれらに関連した遺跡内の土木工事も多くなってきています。

発掘調査に携わるたびに、貴重な文化遺産を大切にするとともに、後世に伝えていく責任を強く感じるものであり、こうした開発の流れの中で、いかなる形で遺跡を保護していくか、最も妥当な方法を検討しているところであります。

このたびの発掘にあたり、県教育委員会の御指導ならびに発掘にかかわる多くの皆様の御協力に深甚なる謝意を表する次第であります。「ノリクラ石」の移転につきましては、地元研究者の皆様から大変貴重な御意見をいただきました。また、土地所有者各位、工事関係者の方々、そして調査地に隣接した多くの皆様の御好意、御協力に対し厚くお礼申し上げます。

平成5年3月

原村教育委員会

教育長 平林 太尾

例 言

1. 本報告は、長野県諏訪郡原村中新田と富士見町御射山神戸に所在する御射山遺跡の第4次緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、三協流通興業株式会社（神奈川県川崎市）の委託を受けた原村教育委員会が、平成4年10月2日から22日にかけて実施した。整理作業は、10月23日から5年2月26日まで行なった。
3. 現場における記録と写真撮影は平出一治・平林とし美、図面の作図とトレースは平林、執筆は平出・伊藤証・平林が話し合いのもとに行なった。
4. 本調査の出土遺物・記録等はすべて原村教育委員会で保管している。なお、本調査関係の資料には、76の原村遺跡番号を表記した。

発掘調査から報告書作成にわたって、竹村美幸・市沢英利・小池幸夫・百瀬新治・武藤雄六・小林公明・樋口誠司・武田安弘・中村久太郎・細川光貞の諸氏をはじめ多くの方から御指導・御助言をいただいた。厚く御礼申し上げる次第である。

目 次

序	
例 言	
目 次	
I はじめに	1
II 発掘調査の経過	1
III 遺跡の位置と環境	2
IV 調査の方法・状況・土層	3
V 発見した遺物	4
VI おわりに	6
引用参考文献	
調査組織	

I はじめに

御射山遺跡（原村遺跡番号76）の伐採作業が行われたことから、管理者である中新田区長に該当地域の開発計画を問いただしたところ、配送センター建設の計画が持ち上がっていることがわかった。その保護について、長野県教育委員会文化課の指導をうけるが、以前は「諏訪神社信仰関係遺跡」の国指定史跡の候補地に入っていたこともあり、結論を導き出すことはできなかった。

周知の遺跡内における開発計画であり、工事の主体者に遺跡の説明と保護に関する協力をお願いするが、建設予定地が富士見町と原村にまたがっていることもあり、関係者が一堂に会して協議するのが最良と考え、平成4年7月14日に行われた長野県教育委員会の「御射山遺跡開発に係る埋蔵文化財保護協議」で協議された。出席者は長野県教育委員会文化課・三協流通興業株式会社・富士見町教育委員会・富士見町御射山神戸区・原村中新田区・地元研究者・原村役場総務課・原村教育委員会であった。

その後も協議を行い、原村教育委員会は三協流通興業株式会社から緊急発掘調査の委託をうけて、平成4年10月2日から22日にわたり、御射山遺跡第4次緊急発掘調査を実施した。

II 発掘調査の経過

平成4年10月2日 発掘準備をはじめめる。

8日 打ち合わせと上物の片付けをはじめめる。

9日 調査開始にあたって教育長の挨拶のあと、発掘機材・テントの搬入、テントの設営。引き続きグリッド設定を行い、グリッド発掘をはじめめる。

12日 グリッド設定と発掘を行う。IV AR-47グリッドから青磁破片が出土する。

14日 グリッド発掘を行う。IV AU-71グリッドから古銭が出土する。

17日 グリッド発掘と以前に土取りの行われた切り面の調査をはじめめる。

19日 グリッド発掘とノリクラ石の調査、IV AT-72、IV BC-72グリッドで発見した焼土の精査を行う。IV BI-73グリッドから灰軸陶器・土師質土器・青磁の破片が出土する。

21日 グリッド発掘とノリクラ石の調査を行う。掘り込みと基礎の礎（据付を安定させるための積石）を確認する。IV AV-72グリッドから黒曜石の剝片・土師質土器の破片、IV BL-74グリッドから土師質土器の破片、IV BK-75グリッドから灰軸陶器の破片が出土する。

22日 グリッド発掘とノリクラ石の調査、片付けを行い、発掘機材・テントを撤去をする。

III 遺跡の位置と環境

御射山遺跡（原村遺跡番号76）は、中央自動車道の諏訪南インター東方約500m付近に位置し、茅野市・富士見町・原村の3市町村が境界を接し合うあたりに御射山社が鎮座している。その境内から東に広くひろがり、行政区分は富士見町と原村にまたがっている。地理的にみると、宮川の支流の一つ八ヶ岳の西麓を流下する神田川（ミタラシ川・御射山沢）と芳原川（手洗沢）に挟まれた地域で、標高は1,000m前後を示し、地目は山林と原野である。

本遺跡は「諏訪神社信仰関係遺跡」の一つで、従来から付近には祭事を物語るような地名がみられる。本調査区の小字名は「花表原（とりいばら）」であるが、通称「ノロシヤマ」と呼ばれている。付近には、平安時代後期の住居址が発見されている手洗沢・頭殿沢・御狩野・梨の木沢・堤の尾根・箕手久保遺跡などが点在している。

発掘対象地点は、遺跡を横切っている県道弘沢―富士見線の東側（八ヶ岳側）にあたり、遺跡全体からみたら東外れのわずかな範囲であるが、その尾根上は数年前にローム層までにおよぶ土取り工事が行われ、破壊された範囲は広い。

本遺跡は、富士見町教育委員会と原村教育委員会が3回におよぶ発掘調査を実施し、縄文時代早期の陥し穴1基、中世の小竪穴2基と溝状遺構1を発見し、縄文時代早期と後期の土器破片と石器、平安時代の土師器・灰釉陶器の破片、中世の土師質土器と青磁の破片、古銭等が発見している。



第1図 御射山遺跡第4次発掘調査区域図・地形図（1：2,500）

IV 調査の方法・状況・土層

発掘に先だち、地形にならったグリッドを設定した。東西方向には50mの大地区を設け、西からA区・B区・C区というようにアルファベットを用いて地区割りをした。大地区の中をさらに2×2mの小地区(グリッド)に分り、東西方向は西からA～Yのごとく区分した。南北方向は算用数字をふったが、それは北に行くにしたがい大きくなる。

第2図でみるように48グリッド132m²の平面発掘を、原則としてソフトローム層上面まで行った。出土遺物は少なく、遺構を検出するまでには至っていない。

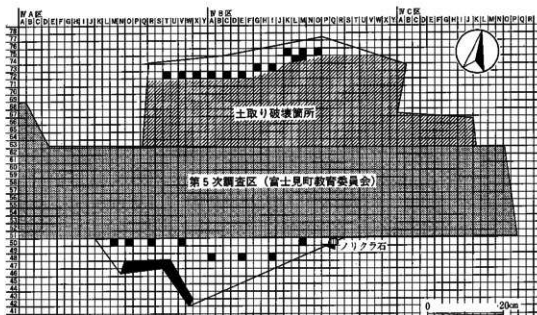
ノリクラ石とその付近の調査を行ったが、ノリクラ石の下には積み石が見られた。その時期は確定できなかったが、移動ないしは据え変えが行われているようである。

また、IV AT-72、IV BC-72両グリッド発見の焼土は、比較的しっかりしていた上に10～15cmと厚く、その範囲も広く精査を行ったが、遺物の発見は皆無で、性格および帰属時期を究明するまで至らなかった。しかし、本調査地点を「ノロシヤマ」と呼んでいることから、極めて興味深い発見であろう。

本遺跡における基本層序は次のとおりであり、おおまかな観察結果を記しておきたい。

第I層 黒褐色土層。表土層で18cm前後の厚さである。

第II層 黒色土層。第I層よりしまっている。厚さは10～50cmを計り、なかには、子供の掘り



第2図 御射山遺跡グリッド配置図(1:400)

拳大から頭大の円礫を含んでいるグリッドもみられた。

第III層 茶褐色土層。第II層同様に円礫を含むグリッドもあり、礫の量が多い。

第IV層 礫混入茶褐色土層。第II・III層同様に円礫を含み礫の量は極めて多い。礫の包含量で第III層と第IV層とを分離した。やはりこの層の認められないグリッドもあった。

第V層 ソフトローム層。

V 発見した遺物

発掘調査の結果、縄文時代・平安時代から近世にまたがる遺物が発見された。それらの遺物を時代別に分類し若干の考察を加えてみたい。

1 縄文時代の遺物

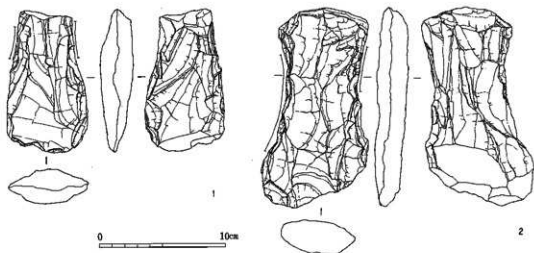
発見した遺物は少ないが土器と石器がある。

石 器

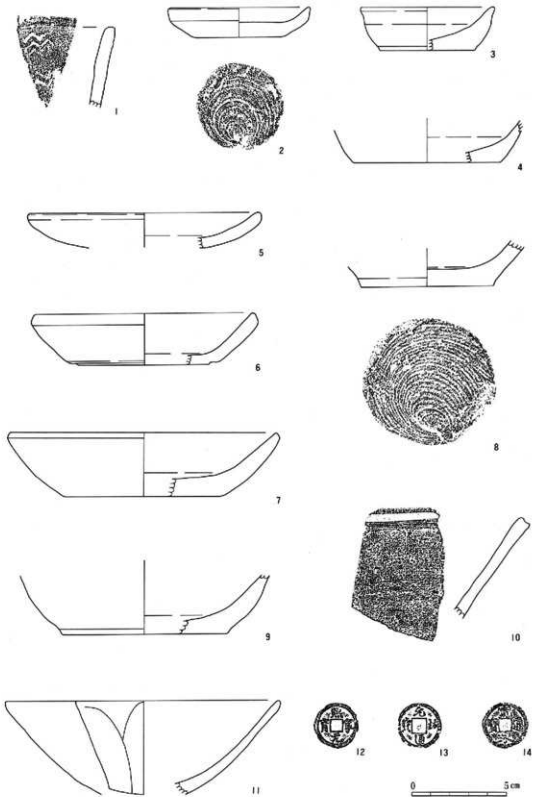
第3図1・2は硬砂岩製の打製石斧で、2点とも厚みのあるものである。1は基部を僅かに欠損している。2は大形の優品であるが、刃部を斜めに欠損している。図示できなかったが黒曜石の剥片が5点ある。

土 器

第4図1は縄文時代早期の山形押型文土器の口縁部破片で、胎土・焼成とも普通である。



第3図 御射山遺跡出土石器実測図 (1:3)



第4図 御射山遺跡出土遺物 (1:2)

2 平安時代以降の遺物

出土した遺物は、小破片ばかりであったが灰釉陶器、土師質土器、青磁、古銭がある。

土器と陶器

第4図10は灰釉陶器の口縁部破片であるが、器形を復元できるものではない。

第4図2～9の土師質土器は全て破片から器形を復元したもので、胎土により赤褐色系のもので褐色系のもとの大別できる。胎土および成形とも粗雑であるが、糸切底の認められる2～4・7～9の胎土はやや良い。2と9は赤褐色系で、2の胎土には砂を含み極めて悪い。3～8は褐色系で、大まかに見て赤褐色系のものより胎土はやや良い。

青磁は破片ばかり3点発見したが、全て碗の破片であり第4図11の1点を図示できただけである。磁胎には青磁釉が厚くかかっているもので、外面に蓮弁文が施されている。

土師質土器と陶器類の帰属時期については、全て小破片のため明確な同定は出来ないが、土師質土器と青磁が本遺跡の中心となるもので、青磁は13世紀中頃に龍泉窯で焼かれたものと思われる。したがって土師質土器も同じ頃の所産であろう。

鉄製品

古銭が4点あり、第4図12は「熙寧元宝」、13は「元祐通宝」の渡来銭、14は「寛永通宝」である。なお、破損しているため図示できなかったが「祥・元・寶」の3文字が残存する「祥符元宝」がある。

VI おわりに

今回の発掘は、遺跡全体からみたらわずかな範囲に限られ、すでに土取りによって破壊された範囲が広がった上に、発見した資料も少なく、本遺跡の性格を積極的に物語ることはできない。しかし、発見した青磁・土師質土器全てが小破片である点は、第2次発掘調査報告書でも述べたが、御射山祭（祭祀）の性格を究明するうえの手掛りの一つになるかもしれない。

いずれにせよ、発見した青磁・土師質土器・渡来銭は御射山祭（祭祀）の一端を物語るものであり、諏訪神社信仰関係遺跡の東側外縁部の様子の一端を窺うことはできたといえよう。

最後に、関係者各位ならびに発掘調査にたずさわった方々に厚く御礼申し上げる次第である。

引用参考文献

- 1961 03 細川隼人編『富士見村誌』
- 1985 03 富士見町教育委員会『御射山遺跡発掘調査報告書 県道弘沢富士見線改良事業に伴う緊急発掘調査』
- 1986 03 原村教育委員会『原村の埋蔵文化財3 御射山遺跡(第2次発掘調査) 御射山地区県営畑地帯総合土地改良事業に伴う緊急発掘調査報告書』

御射山遺跡第4次発掘調査団名簿

- 団 長 平林太尾(原村教育委員会教育長)
- 調査担当者 平出一治
- 調 査 員 伊藤 証 平林とし美
- 調査参加者 平林途雄、清水豊一、清水太助、守屋菊一、中村きみゑ、小林ミサ、清水としみ
(順不同)
- 事 務 局 原村教育委員会事務局 小池平八郎(教育次長 平成4年4月～5年1月)、
大口美代子(係長)、宮坂道彦、伊藤佳江、伊藤 証、平出一治

原村の埋蔵文化財22

御射山遺跡(第4次発掘調査)

配送センター建設に伴う緊急発掘調査報告書

発行日 平成5年3月20日

発行 原村教育委員会
長野県諏訪郡原村

印刷 日本ハイコム株式会社
塩尻市北小野 4724
TEL 0263-56-2111

